

姫天だより

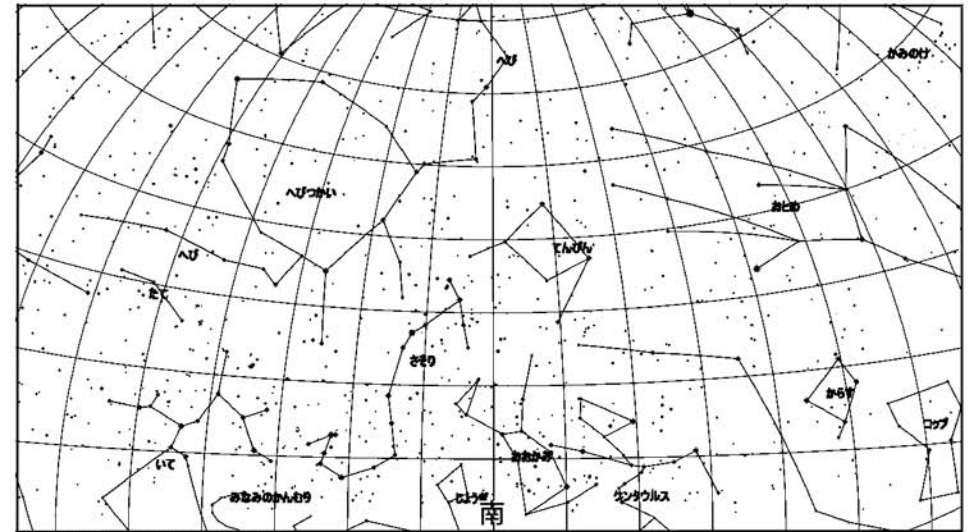
★今月のテーマ 夏の星空を見よう

久しぶりの天体教室開催になります。6-7月中は日本では梅雨の季節にあたりせっかくの七夕も晴れることはまれですが本来の七夕はおよそひと月遅い旧暦の7月7日に行われており2021年度は8月の14日が旧暦の七夕にあたります。

国立天文台も伝統的七夕としてこちらでの七夕を広報しています。

姫治天文台も出来るだけ観望会は梅雨時の開催を避けて7月下旬に行っております。

7月下旬ともなりますと夏の星座が8時頃にはだいたい天頂付近に近づいておりますので街の明るさを避けて観察をしやすくなっています。



7月15日午後8時の南の空

7
月号
2021

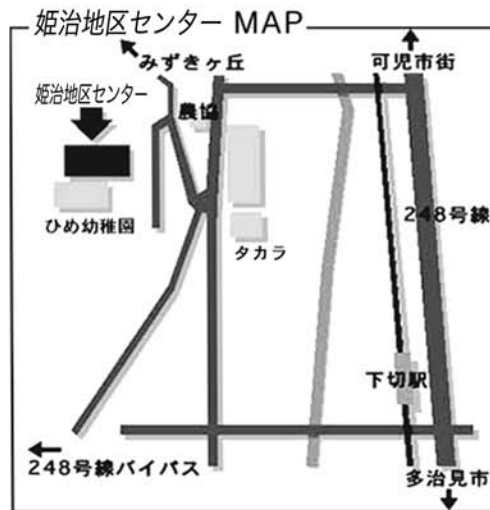
-次回の天文クラブ-

●7月の星を見る会

7月31日(土)午後7時30分より
星空の観察
夏の星座観察

●夏の星祭り

8月14日(水)午後7時30分より
七夕かざりの飾り付け
夏の星座観察



JR太多線下切駅より徒歩13分
2021年7月1日発行

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 てんびん座

今月はてんびん座"を紹介しましょう。7月上旬の午後8時ごろに真南の空地平線から35度あたりにひらがなの"く"の字を鏡に映し左右裏返した形に3つの星が輝いています。これが黄道12宮7番目の"てんびん座"です。しかし、主な3つの星は3等星のため可児市の空で見つけるのは難しいかもしれません。てんびん座を直接見つけるのではなく、先月紹介したおとめ座と皆さんも良く知っているさそり座の間を探すほうが、星座の位置は分かりやすいかもしれません。

おとめ座の正義の女神アストレアが手にする、人間の運命や正邪をはかったてんびんだとされています。しかし、星の並びから星座絵のてんびんを想像することは困難でしょう。なぜなら、もとはさそり座のはさみの星として考えられていたようで、てんびん座として見られるようになったのは紀元前1世紀ごろで、この星座の中に秋分点があり昼夜を2分していたことによると言われています。その理由はてんびん座のα星はズベン・エル・ゲヌビの名があり「南の爪」という意味で、β星はズベン・エス・カマリの名で「北の爪」という意味があるからです。